

沖縄県平和祈念資料館だより



平和交流・平和学習拠点として

沖縄県平和祈念資料館
館長 呉屋 禮子

沖縄県平和祈念資料館は、「平和の礎」と一体となって沖縄戦の歴史的教訓を正しく次代に伝え、平和を希求する「沖縄のこころ」を世界に発信し、恒久平和の実現に寄与する拠点施設です。平成12年に旧資料館を新築移転して平成24年度で開館13年目になります。

沖縄戦から67年、そして復帰40年を迎えるにあたり、平成23年度は第12回特別企画展「アメリカ世（ユー）の沖縄—遅しくしたたかに生きてきたウチナンチュ—」と題して開催しました。戦後の廃墟の中から米軍統治下時代をウチナンチュ魂でまさにゼロからの出発で、したたかに生きてきた戦後沖縄の逞しさを紹介した企画展となりました。来館者のみなさまからは「非常に素晴らしい企画展だ。資料内容が充実している。」「当時のことが理解できた勉強になった。」「戦後の沖縄について悲惨さだけでなく戦争から立ち直っていく展示だったので元気になった気がしてよかった。」など貴重なご意見やご感想をいただきました。また、沖縄戦に関する子ども向けの企画展として、「子どもたちと沖縄戦—廃墟からの復興—」と題して沖縄戦から終戦直後の苦難の中で生きてきた子どもの様子を展示することで戦争と平和について考えてもらう展示会を開催しました。

当館の主要事業の一つである「児童・生徒の平和メ

ッセージ展」は21回目を迎え、応募作品が過去最高の4,951点となり、県内小中高校における平和教育普及活動がますます充実してきていることがうかがえます。関係機関の御協力のもとに八重山を含む県内5会場で展示会を開催しました。

そして、平成21年度から平成23年度までの事業計画で進めてきたJICA草の根技術協力「沖縄・カンボジア平和博物館協力」事業が今年で最終年度となりました。この事業はツール・スレン虐殺博物館が平和博物館として活動していくための人材育成に当館が培ってきたノウハウを提供し支援していくものです。3年間の取り組みの成果発表として、ツール・スレン虐殺博物館においてカンボジアと沖縄の合同企画展を開催しました。

今後とも沖縄県平和祈念資料館が平和交流・平和学習の拠点として平和博物館の使命を果たしていかなければならないと考えております。

開館以来、当館は設立理念を実現すべく多くの方々の御協力や御支援を得て活動を進めてきました。今後とも多くの来館者や県民の皆さんからの御意見を頂戴し、また御支援、御協力をいただきながら「平和の創造」に向けて「沖縄のこころ」を発信していきたいと考えております。

第12回特別企画展の開催報告

第12回特別企画展を「アメリカ世（ユー）の沖縄—遅くしたたかに生きてきたウチナンチュー—」のテーマで、平成23年10月10日（月）～12月11日（日）に本館（企画展示室）で、平成24年1月19日（木）～2月26日（日）までの期間は八重山平和祈念館に於いて開催しました。

今回の企画展では、戦後から復帰までの沖縄に焦点をあてました。展示は3部で構成され、第1部では米国軍政府の占領政策のねらいとそれを通して行われてきた主な政策をとりあげました。アメリカ人の対沖縄（人）観の原形をつくり、それが占領政策にも影響を与えたといわれている『琉球列島民事ハンドブック』や『琉球列島の沖縄人—日本の少数民族』などの資料は多くの観覧者の関心を集めました。第2部では軍政府直轄で比較的住民が利用した琉米文化会館での活動の様子を具体的に考察していきながらその果たしてきた役割をみていきました。第3部は、アメリカ世

の中で影響を受け入れて発展・生まれた文化を紹介すると同時に米軍基地に駐留する米軍の犯罪の増加や基地から派生する問題に対する民衆の抵抗のエネルギーが1972年の復帰を実現に導いた様子を写真や実物資料で紹介しました。また、米軍統治下時代の教科書の複製を作成し、手にとって閲覧できるコーナーは好評を博しました。

開催にあたり、個人や各地方自治体、県内多数の資料館、博物館等から貴重な資料を200点以上借用させていただき、充実した資料展示を行うことができました。

ウチナンチューが、戦後、ゼロの状態から遅く吸収できるものは吸収し、受け入れられないものは断固拒否しながら遅くしたたかに生きてきた様子を紹介した今回の展示会は平和についてより深く考えることができる良い機会になったと考えています。

・オープニングセレモニー



本館（10月10日）



八重山平和祈念館（1月19日）

・観覧風景



本館



八重山平和祈念館

JICA連携事業「沖縄・カンボジア『平和博物館』協力」報告

「沖縄・カンボジア『平和博物館』協力」事業の最終年度の沖縄での研修が、10月11日から11月4日までの約1ヶ月間行われました。今年度はトゥール・スレン虐殺博物館から4名のスタッフを招き、効果的な展示方法、資料保存、平和教育普及活動、WEB作成

の方法などの研修を行い、南風原町立翔南小学校において同館スタッフによる平和講和も実施しました。

トゥール・スレン虐殺博物館は、1975年から78年にかけてのポル・ポト政権下で住民が収監され、拷問された刑務所がそのまま保存された、カンボジアの現代史の悲劇を伝える博物館です。この平和博物館協力事業は、トゥール・スレン虐殺博物館が平和博物館として活動していくための人材育成を支援するという当館の提案をJICAが採択し、JICA沖縄国際センターと連携して行っているものです。

今年度は事業最終年度ということもあり、トゥール・スレン虐殺博物館において合同の展示会を開催しました。この展示会では、2つの平和博物館の展示内容や事業紹介、プロジェクトの内容や成果、平和の尊さ・平和を創造することの大切さ等を世界に向けて発信することができました。



合同企画展オープニングセレモニー



参観の様子



参観の様子(自白調書レプリカの公開)

国際協力・交流フェスティバル2011参加報告(主催:JICA沖縄)

平和祈念資料館は、「世界の人々に平和を希求する私たちの心を訴え、世界の恒久平和の樹立に寄与する」という設立理念のもと国際協力活動も行っています。

特にJICA沖縄とはパートナーとして連携事業を実施していることもあり、国際協力・交流フェスティバルに毎年ブース出展しています。今年度は、当館の事業紹介の展示、子どもたちが理解しやすいように工夫した沖縄戦に関する展示、トゥール・スレン虐殺博物館の紹介を中心にしたカンボジア写真展、当資料館独自のミュージアムグッズの紹介・販売等を行いました。数多くの皆さんに当館の事業を理解していただく機会となりました。

[日時] 平成23年11月26日(土)～27日(日)
[場所] JICA沖縄国際センター本館2階(201室)
[入場者数] 3,554人(フェスティバル全体の数)



展示参観の様子(当館紹介のコーナー)

ピースメモリアルグッズ開発事業

国の緊急雇用対策事業の一環である「ふるさと雇用再生特別基金事業」を活用し、平成22年度より2カ年計画で進めてきた「ピースメモリアルグッズ(PMG)開発事業」が終了しました。この2カ年間で多くのミュージアムグッズが製作され、6月23日の慰霊の日と10月中旬より平成23年度末までの期間にテスト販売を行いました。来館者からの評判もよく、多くの関心を寄せていただきました。

また、平成24年1月20日～2月5日の期間に総合成果発表会を開催し、これまで開発された商品や企画で採用されなかった未完成のグッズなども展示しながら、グッズ開発についての紹介も行いました。



資料貸し出しについて

本館では沖縄戦関係の写真パネル、砲弾の破片、水筒、手榴弾などの実物資料、沖縄戦に関する絵等の貸出を県内外の学校、公共機関、平和団体などに貸出をしております。今年度は36団体、560点の資料を貸し出しました。

中でも、本部町浦崎公民館では12月～4月まで継続して4回、80点にのぼる沖縄戦、サイパン、テニアンの写真パネルを利用いただき、公民館主催の平和写真展を開催しました。「高齢で平和祈念資料

館まで来れない方、こもりがちでなかなか外出してこない方など、このパネル展をきっかけに地域で声を掛け合い、公民館に集まってきてコミュニケーションのきっかけ作りになっているこういった企画を地域の公民館が主体となって行っていけば高齢者の孤独死の防止にもつながるので、是非積極的に宣伝して欲しい。」と区長の安田稔さんが感想を述べてくれました。資料貸出の新たな可能性をご提案いただきました。



平成23年度 沖縄戦講座の報告

平成23年度特別企画展「アメリカ世の沖縄」(平成23年10月10日～12月11日)の期間中に関連催事として沖縄戦講座を開催しました。

現代沖縄の様々な問題の原因を、戦後27年間の米軍占領時代に焦点を当て、学校教育における「琉球・沖縄史」の指導とも絡ませながら考察していただきました。そして、教科書で沖縄がどのように記述され、子ども達がそれをどう認識しているか、アンケート結果をまじえ、沖縄のあるべき姿についても論じていただきました。また、米軍支配下の戦後の沖縄で当たり前のように起こってきた米軍がらみの事件・事故、それに巻き込まれたご自身の辛い体験もお話いただき、改めて今もなお続く基地があるが故の問題を実感させられる講座になりました。

次年度も企画展に関連した講座を予定していますので、多くの方々の受講をお待ちしています。



新城俊昭氏による講演

日 時:平成23年11月20日(日)午後2時～4時30分
場 所:沖縄県平和祈念資料館 2階会議室
講 師:新城俊昭氏(沖縄大学客員教授)
演 題:「アメリカ世の沖縄」
～教科書で沖縄はどう教えられているか～
受講者:56名

平成23年度「沖縄県平和祈念資料館講習会」

当館への案内業務に携わっている旅行・観光等の関係機関に携わる方々に、本館の設立理念・目的や役割、施設・設備及び展示内容等について理解・認識を深めてもらい、本館の活用並びに案内業務の推進を図ることを目的に講習会を実施しました。

〈日 時〉平成24年2月15日(水) 13:00～16:10
〈場 所〉沖縄県平和祈念資料館 会議室
〈対 象〉タクシー乗務員・バスガイド・ボランティア・観光等関係者
〈講習内容〉平和祈念公園及び資料館施設説明・展示内容・沖縄戦の特徴
〈参 加 者〉49名



講話(沖縄戦の特徴等)

平成23年度講話・ガイド活動実績件数

◎平成23年4月～平成24年2月までの活動状況(県外)

団 体	実施件数	実施人数	派遣講師
高等学校	50	8,070	50
中 学 校	20	1,796	20
小 学 校	2	119	2
そ の 他	18	1,002	18
合 計	90	10,987	90

(県内)

団 体	実施件数	実施人数	派遣講師
高等学校	5	4,196	5
中 学 校	5	2,729	5
小 学 校	10	3,097	10
そ の 他	2	75	2
合 計	22	10,097	22

(県外・県内)

合 計	112	21,084	112
-----	-----	--------	-----

平成23年度活動内容

- (1) 2階常設展示室の解説員
- (2) 協力事業「平和祈念堂」:清明祭への協力
- (3) 友の会総会 平成23年5月7日(土)
- (4) 学習会:[場所]糸洲の壕 [講師]大城藤六
- (5) 学習会:フィールドワーク 平成23年7月2日(土)
[場所]中城、西原、浦添の戦争遺跡
[講師]仲村 真
- (6) 協力事業「平和祈念財団」鯉のぼり掲揚式への協力
- (7) 協力事業「平和祈念財団」平和祈念公園愛護活動への協力
- (8) 「県立資料館:JICA連体事業」平和祈念公園・南部戦跡の案内
- (9) 学習会:「講演会」平成23年11月20日(日)
「教科書で沖縄はどう教えられているか」
講師:新城俊昭

八重山平和祈念館 平成23年度 事業実施報告

(1) 特別企画展「後世へ語り継ぐ平和への証言」展

〔期間〕平成23年6月1日(水)～7月3日(日)

平和月間にあわせ、八重山の戦争を体験された方々の証言をパネル化した企画展を開催しました。八重山地域で戦争を体験された方々の証言にふれることで、慰藉と慰霊の心を育み、戦争の悲惨さと平和について見つめなおす機会になればと考え企画しました。見学に訪れたたくさんの子どもたちは、戦争当時の様子などを学び、「どうしたら戦争がなくなるか」と平和の尊さについて熱心に考えていました。



(2) 夏休み平和学習会

〔期間〕平成23年7月26日(火)～8月31日(水)

夏休みの平和学習会として、平和や人権、戦争の歴史や戦争マラリアに関する自由研究について、テーマの決め方や資料の利用の仕方・まとめ方などをアドバイスする相談会を実施しました。体験学習コーナーでは、①平和への願いを込めた絵を描いたパーランクーを作ろう②平和のちぎり絵を作ろう③マラリアについて学ぼうをテーマに、多くの子どもたちが友人やお母さんたちと一緒に取り組んでいました。また、平和についてのアニメ上映会も行い、小さなお子さん達も真剣にみていました。



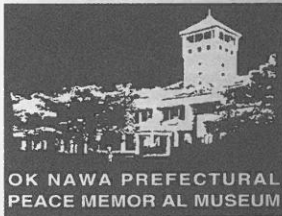
(3) 特別企画展「アメリカ世(ユー)の沖縄」 遅くしたたかに生きてきたウチナンチュ(本館移動展)

〔期間〕平成24年1月19日(木)～2月26日(日)

本館で開催された特別企画展の資料のほか、八重山に関する資料も展示する事により、戦時中・戦後の歴史や平和希求について学ぶ機会を目的として開催。〔第1部〕占領下の沖縄では、アメリカがどのようなねらいで占領政策を行ってきたのか、〔第2部〕琉米文化会館のもたらしたもので、八重山でも行われていた図書館サービスで実際に使用されていた図書箱や椅子等も展示。〔第3部〕アメリカ世(ユー)の中で遅くしたたかに生きてきた沖縄の人々では、ウチナンチュが復帰に向けて様々な活動を行い、平和を求めてヴァイタリティー溢れるウチナンチュが遅く時代を生きてきた足跡を紹介。訪れた方の中には、当時のことを思い出し、琉米文化会館の移動図書館や方言島めぐり大会など、他に娯楽の無い時代だったので文化会館の果たした役割は大きい、という感想がありました。



平成24年度 沖縄県平和祈念資料館年間行事予定



OK NAWA PREFECTURAL
PEACE MEMORIAL MUSEUM

平成24年度 年間スケジュール 沖縄県平和祈念資料館

Event Schedule 2012.4 ▼ 2013.3

開館時間
午前9時～午後5時
(常設展示室への入室は午後4時30分まで)

休館日
・館内消毒作業(7/17～7/19)
・年末年始(12/29～1/3)

観覧料(常設展示室)

	個人	団体 (20名以上)
大人	300円	240円
小人	150円	100円

住所 〒901-0333
沖縄県糸満市字摩文仁 614-1

Tel 098-997-3844

Fax 098-997-3947

HP <http://www.peace-museum.pref.okinawa.jp>

Mail webmaster@peace-museum.pref.okinawa.jp

		企 画 展							催し物など
4月	日	月	火	水	木	金	土	沖縄戦絵本原画展 「絵で見る沖縄戦」 [本館] 6/18(月)～7/21(日)	◆5日(土) 子供の日ビデオ上映会
	1	2	3	4	5	6	7		
5月	日	月	火	水	木	金	土	児童・生徒の 平和メッセージ展 [本館] 6/23(土)～7/6(金) [八重山] 7/12(木)～22(日) [名護] 8/1(水)～5(日) [うるま市] 8/7(火)～12(日) [豊原] 8/20(月)～24(金)	◆23日(土)慰霊の日 入館料無料・ 沖縄戦関連ビデオ上映 ※7月17(火)～19日(木) (館内消毒作業のため 休館します。) ◆夏休み期間中 自由研究相談室
	6	7	8	9	10	11	12		
6月	日	月	火	水	木	金	土	子や孫につながる 平和のウイ事業 [糸満市] 7/2(月)～7/8(日) [名護市] 7/23(月)～7/30(月) [うるま市] 9/3(月)～9/10(月) [那覇市] 10/1(月)～10/8(月) [富古島] 11/5(月)～11/12(月) [石垣市] 12/3(月)～12/10(月)	◆夏休み子供向け企画 ・ビデオ上映会 ・親子平和学習会 ・自由研究教室
	3	4	5	6	7	8	9		
7月	日	月	火	水	木	金	土	特別企画展 「沖縄の人々と戦時下の暮らし」 10月10日(水)～12月9日(日)	第3回子ども・ プロセス企画展 10/10(水)～ 11/23(金)
	10	11	12	13	14	15	16		
8月	日	月	火	水	木	金	土	特別企画展 「沖縄の人々と戦時下の暮らし」 1月19日(土)～2月26日(火)	◆沖縄戦講座
	5	6	7	8	9	10	11		
9月	日	月	火	水	木	金	土	特別企画展 「沖縄の人々と戦時下の暮らし」 10月10日(水)～12月9日(日)	◆資料館講習会
	2	3	4	5	6	7	8		
10月	日	月	火	水	木	金	土	特別企画展 「沖縄の人々と戦時下の暮らし」 10月10日(水)～12月9日(日)	第4回子ども・ プロセス企画展 12/1(土)～ 1/31(木)
	9	10	11	12	13	14	15		
11月	日	月	火	水	木	金	土	特別企画展 「沖縄の人々と戦時下の暮らし」 10月10日(水)～12月9日(日)	第5回子ども・ プロセス企画展 3/1(金)～31(日)
	4	5	6	7	8	9	10		
12月	日	月	火	水	木	金	土	特別企画展 「沖縄の人々と戦時下の暮らし」 10月10日(水)～12月9日(日)	◆沖縄戦講座
	2	3	4	5	6	7	8		
1月	日	月	火	水	木	金	土	特別企画展 「沖縄の人々と戦時下の暮らし」 10月10日(水)～12月9日(日)	◆資料館講習会
	30	31							
2月	日	月	火	水	木	金	土	特別企画展 「沖縄の人々と戦時下の暮らし」 10月10日(水)～12月9日(日)	◆資料館講習会
	1	2	3	4	5	6	7		
3月	日	月	火	水	木	金	土	特別企画展 「沖縄の人々と戦時下の暮らし」 10月10日(水)～12月9日(日)	◆資料館講習会
	3	4	5	6	7	8	9		

※●は休館日 ※行事内容・日程は都合により変更になる場合があります。

第22回児童・生徒の平和メッセージ(図画・作文・詩)作品募集要項

1 募集対象

沖縄県内の小・中学校及び高等学校、高等専門学校、特別支援学校の児童・生徒

2 応募方法

<各部門共通>

- 作品はすべて所属の学校を通して応募する。
- 図画・作文・詩ともに未発表作品で、各分野につき一人一点とする。
- 学校名、学年、氏名(フリガナ)題名を必ず応募ラベルに記入する。

<図画部門>

- 市販の画用紙(四つ切り、38cm×54cm)を使用する。
- 画材、表現方法等は自由であるが、立体作品は避ける。
- 図画には文字のメッセージは入れない。

<作文部門>

- 原稿用紙は、400字詰め・B4サイズ・縦書きの市販の用紙を使用する。

- 小学校低学年は原稿用紙2枚程度、小学校中学年は3枚程度、小学校高学年は4枚程度、中学生及び高校生は5枚程度とする。作品は清書して提出する。

<詩部門>

- 原稿用紙は、400字詰め・B4サイズ・縦書きの市販の用紙を使用する。
- 枚数は特に指定しない。作品は清書して提出する。

3 募集期間

平成24年5月1日(火)～5月24日(木)

4 作品の送り先

〒901-0333
糸満市摩文仁614番地1
沖縄県平和祈念資料館
(電話:098-997-3844・
FAX:098-997-3947)



平成23年度図画部門
特別支援学級・学校の部
最優秀賞
沢砥小学校6年 佐久川 愛梨

「平和祈念資料館利用案内～資料館活用術10のスキル～」について

県内小中高等学校向けに「平和祈念資料館利用案内～資料館活用術10のスキル～」を配付しております。学芸員による「平和講話」、ビデオや平和学習キット、実物資料などの資料貸し出しについて、平和祈念公園の利用方法など10のスキルが一目でわかるよう工夫されております。学校現場での平和学習にお役立てください。データは平和祈念資料館のHPにもアップされておりますのでご利用ください。

沖縄県平和祈念資料館
学校現場で使える
資料館活用術 10のスキル
TEL: 098-997-3844 FAX: 098-997-3947

- 資料館常設展示「沖縄戦の実相と戦後生活」を学べる
- 学芸員による「平和講話」(40分程度)を受講できる
- 子どもプロセス展示で子ども目線の沖縄戦、環境、人権、国際理解をテーマとしたミニ企画展で学べる
- 情報ライブラリーは沖縄戦をはじめ人権、環境、国際理解のための本が活用できる
- 特設授業で活用できる実物資料や沖縄戦の写真・パネルを借出できる
- 授業で活用できる「証言映像」を借出できる
- 「平和学習キット」を使って授業ができる
- 平和の丘(平和文ヶ丘)の設置管理を依頼できる
- 10haの広大な平和祈念公園で遊ぶことができ、遠足等での利用も可能
- 「平和の礎」の発案ができる

第21回児童・生徒の平和メッセージ詩部門最優秀賞作品

【高等学校の部】最優秀賞
白い鳩に願いをたくして
沖縄県立向陽高等学校三年 照喜名 流風

耳をすませば聞こえてくる
風の音 蝉の声 海原の波の音
ウーン畑がサワサワと音をたてている
海辺の丘の青々としげる草の上で私はいた
雲っない 五月晴れの空
すみきた空に浮かぶ黒影が視界をふた
軍用機の余韻と共に
祖母から伝受した
過去の記憶へ時は戻された
この美しい島の過去へ

耳をすませば聞こえてくる
激しい爆撃音 人々の叫び声
風も蝉も海も 皆沈黙
黒い雨が降る中 苦しみ逃げまわる人
必死に我が子の名を呼ぶ母親
目の前で大切な人の命が奪われていく
罪なき人々の未来が失われていった
赤く染まる大地
哀しみ二色に埋もれた島
あるのは閑散とした地ののみ

争いは終わり 長い歳月が過ぎた
目をすませば聞こえてくる
勇ましいエイサー 三線を奏でる人
人々の笑顔
本当に平穏な暮らしが
平和が訪れたのだろうか
六月になると
平和の礎に手をあて 私たちは祈る
一度傷つけた戦争の爪痕を
元に戻すことはできない
今や沖縄は鳥籠の中の鳥のような
鉄条網がまるで国境のように
この地にもつづつアメリカ兵がある
当たり前でないことが現実美にある

平和は与えられるものではない
私たちが築いていくものなのだ
過ぎ去った日々の拘束は
やがて来る日の自由になるだろう
過ぎ去った日々の敵は
やがて来る日の友になるだろう
過ぎ去った日々の暗黒は
やがて来る日の陽光となるだろう
海に沈む夕陽を眺めながら
ふと空を見上げると
白い鳩が 大空の彼方へ 飛び去った
沖縄に真の平和が訪れる日へ向けて
白い鳩に 願いをたくして
今日もまた 私は平和を祈る

忘れではならぬ 昔ではいけぬ
悲惨な歴史を
今 私たちにできること
それは過去の過ちを 次世代へ
伝えていくことだ
そして心に
平和の花を咲かせるのだ
小さな努力が
一人ひとりの小さな歩が
やがて平和へ繋がるだろう

「戦争は恐ろしい」
「戦争が終わると悲慘さを忘れる」
「戦争は恐ろしい」
と口を突いたら
また同じ過ちをくり返してはならないだろうか
人の欲によって生まれる争い
同じ人間同士が 憎み合う姿
そんな姿を省みてほしい

資料のご提供について

戦後67年が経ち、戦争を知らない多くの戦後世代へ、平和の願いを継承していく若い世代に悲惨な戦争の教訓を語り継いでいくためには、戦前、戦時中、終戦後の実物資料が事実を語る上で重要な役割を果たしていくことになります。沖縄戦に関する文書、軍装品などの資料をお持ちの方、貴重な思い出の品々もあるかとは存じますが、ご寄贈いただき、活用させていただけますようお願いいたします。

編集・発行：沖縄県平和祈念資料館

住所：〒901-0333 沖縄県糸満市摩文仁614番地の1
URL：http://www.peace-museum.pref.okinawa.jp/

TEL：098-997-3844 FAX：098-997-3947
E-MAIL：webmaster@peace-museum.pref.okinawa.jp